

「人生100年時代を生き抜く学びとは」

校長 博田 英明

生徒の皆さん、新年明けましておめでとうございます。校長の博田です。

皆さんはこの冬休みをどう過ごしましたか？ 新年早々、能登半島での大きな地震や羽田空港での飛行機事故がありました。亡くなられた方のご冥福を心よりお祈りするとともに、私自身、「命の尊さ」について改めて考える契機となりました。皆さんも、命を大切にすると同時に、グローバル化が進み、ICTが発展し、本格的なAI時代に入りつつある今、人生100年時代を生き抜くための「学び」について改めて考えてみてほしいと思います。

「100歳になった自分を想像してください。そして、それを絵に描いてみましょう！」・・・このように言われたら皆さんはどんな自分を描くのでしょうか？ この問いはアメリカ合衆国コネチカット州の小学校で、自分が100歳になったときの様子を絵に描くという授業で出されたものです。ワークシートには”When I am 100 years old, I will look like this!”と書かれていました。この授業については、その後の授業検討会で賛否両論があり、反対するアメリカの先生たちの中には、「現実味に乏しい授業は行うべきではない」という意見もありました。逆に賛成する意見には、「創造や空想が子どもの発想力を深める」という主張が多かったそうです。

一方で、「今20歳の方は100歳以上、40歳以上の方は95歳以上、60歳以上の方は90歳以上生きる確率が半分以上ある」、また「2007年に日本に生まれた子どもの50%は107歳まで生きる」と言われたら、皆さんの頭の中にはどんな思いや考えが去来するのでしょうか。リンダ・グラットンとアンドリュー・スコットという人が書いた『ライフシフト』という以前話題になった本の中にそう書かれています。これまでの、まず「教育を受け」→「社会で働いて」→「引退する」という大まかな人生のモデルが変わり、いつでも学び直し挑戦できる生き方が生まれるかもしれません。いや、もう既にそうなりつつあります。

仮に皆さんが今から100年前、つまり昭和初期の時代に生まれて当時の学校へ通っている時に、100年以上生きると分かっていたとしたら、どんな勉強をして、どんな人生を歩みたいと思ったのでしょうか？ すぐに気が付くのは、その時代に確立されている知識や技能を身に付けることも重要ですが、通過点としての「100歳分の16、17、18歳」の段階で学んだことだけで残りの80年以上を生きていく、働いていくというのはどう考えても難しいし、無謀であるということです。これまで以上に長い時間を生きることになるならば、これまでの過去とは違った自分の人生やその生き方を考えることが必要になるでしょう。

それではこのような時代を生き抜くためには、皆さんにどのような力が必要となるのでしょうか？ 結論から言うと、「正解」のない課題に対して、記憶力だけではなく思考力や表現力が求められることとなります。例を挙げましょう。これまでテストでは例えば「(ザ

ビエルの肖像画を見て)この人物の名前を答えなさい」とか「ザビエルがしたこととして正しい選択肢を全て選び、年代順に並べなさい」という問題がよくありました。一歩進んで、「ザビエルが日本に来た目的は何ですか。50字以内で書きなさい」という問題もありました。しかし、最近の大学入試改革や教育改革が求める「新しい学力」では、例えばテストでこんな問いに答える能力が問われています。「もしあなたが、ザビエルのように知らない土地に行って、その土地の人びとに何かを広めようとする場合、どのようなことをしますか。具体的な根拠とともに600字以内で答えなさい」。これは21世紀型教育を創る会の幹事を務めた石川一郎さんが著書の中で紹介している例ですが、2年前から始まった「大学入学共通テスト」でもこのような問題をよく見かけます。このような問題に確実に答えられるようになるために、本校の先生方も活動的で能動的かつ協働的な学びを実現する授業や探究活動を工夫されています。皆さんもこうした学習や探究を通じて、「自分はこう考えます。その理由はこうで、これからこう行動しようと思います」という地点まで進み、常に周りの人たちと協力しながら、生涯を通じて学び続ける人であってほしいと願っています。

さて、3年次生の皆さんの多くは、今週末に迫った大学入学共通テストやこれから始まる一般選抜受験など進路実現のための本番がいよいよ始まります。受験は「ひとり」で向き合わなくてはならない大切な場面です。また1・2年次生は年度末に向けて、まずは「ひとり」で学習面をしっかりとさせ実力を蓄える大事な時期です。100歳になる自分を想像しながらも、こうした目の前にある目標達成はもちろん、生涯を通じて学び続ける姿勢を大切にして自分に向き合ってみてください。今年、翔陽高校は創立20周年という節目を迎えます。今年度の締めくくりとなる第3学期が皆さんにとって実りあるものとなるよう期待しています。以上で私の話を終わります。